



元気っ子

No 301 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

2年振りに有観客開催となった第104回全国高等学校野球選手権大会ですが、長い歴史の中で初めて深紅の大優勝旗が白河の関を超えました。仙台育英高校、優勝おめでとうございます。本当に見事な戦いを見せてくれました。特筆すべきはエースの古川君を筆頭に140km台の速球を持つ投手が5人という戦力です。球数制限も導入され、以前のような絶対的エースが一人で投げぬく時代は終わりを迎えたのかもしれない。今年の仙台育英高校の優勝は今後の甲子園の「勝ち方」を占めているように感じました。そして閉会式での仙台育英高校須江監督の言葉は本当に素晴らしかったと思います。「青春ってすごく密」という名言と共にインタビューの最後に「全国の高校生に拍手してもらえたら・・・」とのお言葉を述べられました。「高校球児」と言わずに「高校生」と言ったのは須江監督の人間性そのものだったと思います。入学当初からコロナ禍を過ごした全ての高校生へのリスペクトを込めたお言葉だったことは閉会式にふさわしいインタビューだったと思います。

高校球児については開会式の横浜高校主将玉城君の選手宣誓「苦しい時期を乗り越えることができたのは、他でもない、ここに甲子園があったからです」の言葉に表れていたと思います。

大会前から高評価の高松商業高校の浅野君は一大会3本塁打と結果を残しました。特筆すべきは準々決勝での近江高校戦で見たバックスクリーンへの弾丸ライナーホームランです。センターを守っていた小竹君が2、3歩しか追いませんでした。それほどの打球だったことを物語っています。浅野君は試合後に「プロ一本」と進路も明かし、今年のドラフト会議の目玉になることかと思います。

絶対王者の大阪桐蔭高校に真っ向勝負を挑んだ下関国際高校も本当に素晴らしかったです。数年前までは部員も少なく弱小野球部だった学校を坂原監督の熱心な指導の元、2017年に初めて甲子園出場を決め、2018年には春夏連続出場を果たしました。そして第100回の記念大会には全国8強入りし、一躍強豪校の仲間入りを果たしました。エースの古賀君は秋の中国大会で広島の高松高校に完封負けを喫し、その悔しさを原動力にこの夏、準優勝という素晴らしい結果を残しました。リリーフの仲井君も2番手とは思えないすばらしい投球を見せてくれました。ちなみに捕手の橋爪君と仲井君は小学生の時からバッテリーを組んでいた幼馴染です。

近江高校については絶対エース山田君が長崎海星高校との試合で満塁ホームランを放ちました。まさに甲子園に愛されすぎている選手だったと思います。山田君は今大会で甲子園での奪三振数が108個と歴代4位になりました。(歴代1位は150個のPL学園桑田投手です)

第104回全国高等学校野球選手権大会を僕なりに部分的ではありますが総括してみました。まだまだ聖光学院の躍進や愛工大名電の亡きチームメイト瀬戸君への思いなど語りつくせませんが、ご興味のある方はお迎えを一時間くらい早めに来て頂き、お声掛け下さい(笑)今回は保育のお話はお休みしましたが、また来月から熱く保育を語らせて頂きますのでよろしくお願い致します。

